

第3節 食育推進の取組



(1) 施策体系図にある目標

〇こころ豊かな人間性を育むために、食文化の伝承，地産地消を推進する

(2) これまでの主な取組

食育推進部会で食育に関する課題を共有し、それぞれの関係団体と連携して、食育への関心を高めるための体験の機会の提供や、食に関する情報の提供を行いました。

共 助

- ・農業，漁業関係団体や企業等と連携し，調理や収穫などの体験活動を行いました。
- ・栄養改善協議会が6月の食育月間に合わせて食育講習会を開催することで，食育の普及啓発を行いました。
- ・公民館や健康づくりボランティア団体等が，共食の楽しさや食への関心を高める体験活動を実施しました。

公 助

- ・食育ホームページを開設し，子どもから高齢者まで幅広い世代に向けて食育月間や地産地消等，食に関する情報提供を行いました。
- ・食育応援キャラクター“いちじっくん”を活用した食育のぼり旗により，食育月間の普及啓発を行いました。
- ・学校給食を活用した食に関する情報提供を行いました。
- ・農業，漁業団体等の地産地消を推進する団体の活動支援を行いました。

(3) 中間評価の結果

- ・食事を楽しいと感じる人の割合，食育に関心がある人の割合は，みのる世代を除くすべての年代で横ばい状態となり，目標に達していませんでした。みのる世代については，この度の中間評価時に数値を把握したところ，食事を楽しいと感じる人の割合は86.9%，食育に関心がある人は84.9%でした。
- ・年代別にみると，食事を楽しいと感じる人の割合は，みのる世代を除くすべての年代でわずかに減少していました。（図25）
- ・食育に関心がある人の割合は，20歳代から40歳代は減少傾向，50歳代以上は増加傾向でした。

（図26）

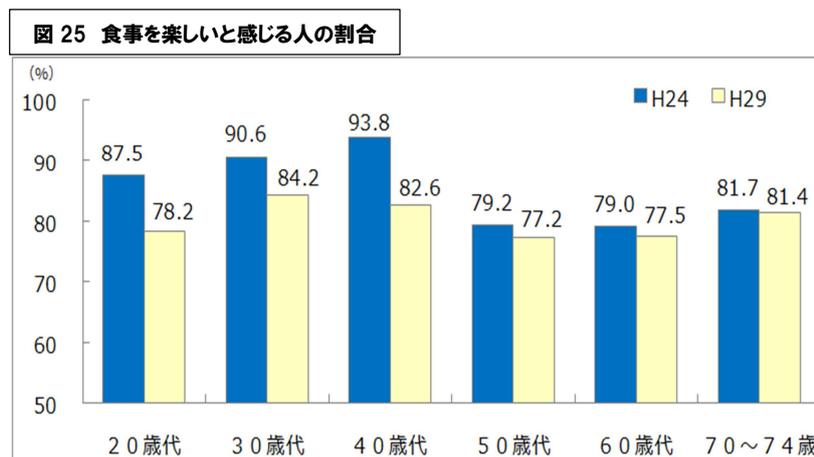
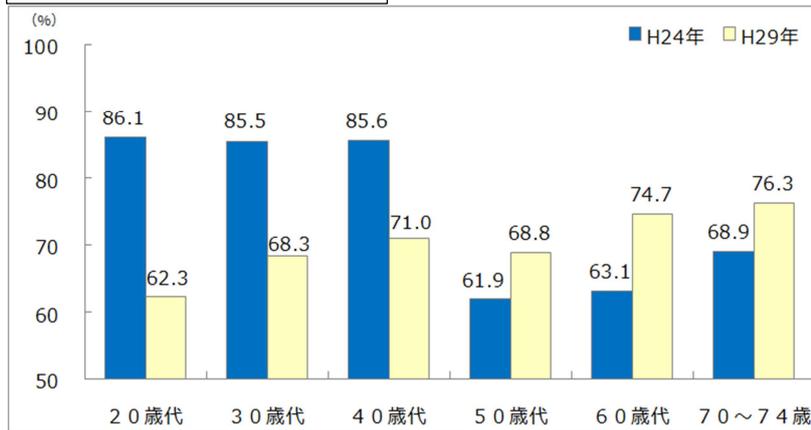
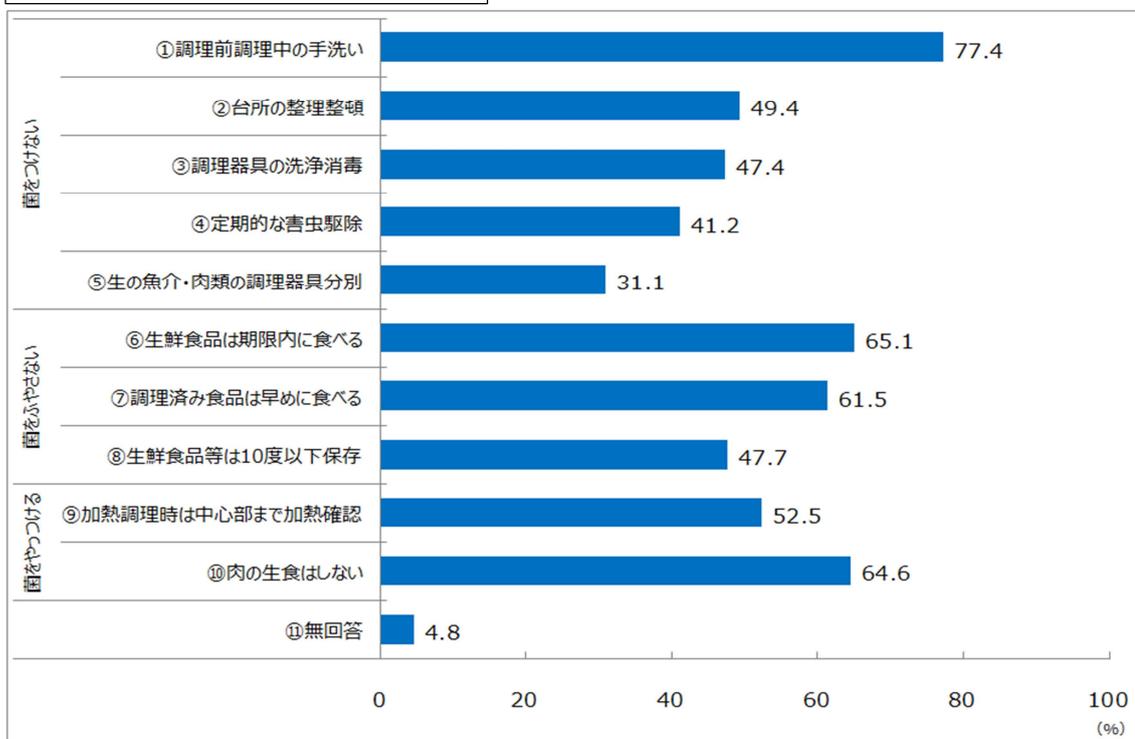


図 26 食育に関心がある人の割合



- 食の安全性に関する基本的な知識としては、食中毒予防3原則（菌をつけない、ふやさない、やっつける）に関係する取組 10 項目のうち、意識調査にて行っている項目すべてを選択してもらいました。
- 意識調査の結果から 10 項目を食中毒予防3原則で分類し、3分類からそれぞれ1つ以上選択できている人を、食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民として集計したところ、むすび世代は策定時の 74.5%から 63.2%に悪化していました。みのる世代の基礎的な知識を持っている人は、約 8 割と、むすび世代より高い結果でした。
- 項目別にみると、“手洗い”については約 8 割、“生鮮食品の期限内摂取”や“調理済み食品の早めの摂取”、“肉の生食はしない”については、約 6 割の人が取り組めていました。(図 27)

図 27 食の安全性に関する基本的知識の認知度



(4) 今後の課題

- 食育への関心や食事を楽しいと感じる人の割合は、特に 20 歳から 40 歳代の若い世代が悪化していました。この年代は特に、子どもの食環境に大きな影響を与える保護者世代でもあることから、若い世代に向けた食育推進の取組が必要です。

- 農業や漁業等の体験活動では、現在の収穫体験でなく、料理をして食べることで初めて“食”の楽しさや関心を高める体験となるため、“収穫して食べる”までの、より食育への興味関心を高める活動へと工夫する必要があります。
- 食の安全性についての知識がある人として、食中毒予防の3原則（菌をつけない、ふやさない、やっつける）すべてに取り組んでいる人の増加を目標としています。食中毒予防については、食中毒が発生しやすい春先から夏場にかけての普及啓発を中心としていましたが、年間を通じた知識の普及が必要です。

(5) 今後の方向性

- 若い世代に向けては庁内関係課と課題を共有し、食の体験事業において、めばえ世代への活動をわかば世代まで広げるなど対象世代を拡大し、親子で食の関心を高める効果的な取組等を検討します。
- 庁内関係課や地域住民、企業、健康づくりボランティア団体等との連携しながら、食育月間やイベントなどあらゆる機会を通して、共食の重要性、バランスよく食べることの大切さなど、食に関する知識と実践力が身に付くよう、食育の普及啓発に努めます。
- 食の安全性について、すべての世代に普及啓発が出来るよう、各種教室、地区活動、市ホームページ、イベントなどで積極的に情報提供を行います。

■目標の変更について

指標「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上ある者の割合」

〈変更前〉むすび世代：80% みのる世代：80%

〈変更後〉むすび世代：50% みのる世代：75%

変更理由：県「健康おかやま21セカンドステージ」の目標変更に伴い変更
みのる世代は県の目標を達成していたため、現状値から同様の増加率で再設定

指標「よく噛んで味わって食べる等、食べ方に関心がある者の割合」

〈変更前〉むすび世代：80% みのる世代：80%

〈変更後〉むすび世代：30% みのる世代：40%

変更理由：国「第3次食育推進計画」の目標変更に伴い変更
国の現状値から目標までの増加率に合わせて目標を再設定

指標「低栄養傾向の者の割合（BMI20以下の高齢者）」

〈変更前〉 22%

〈変更後〉 22%以下

変更理由：国「健康日本21（第2次）」の目標22%を超えないことを目標に表現を変更

■指標表記の変更について

〈変更前〉 指標「適正体重を維持している者の割合（40～64歳肥満者の割合）」

〈変更後〉 指標「40～64歳肥満者の割合」

変更理由：表記のみ分かりやすく変更